



※当センターは、フィリピン残留日本人の身元捜し、国籍確認、在日日系人支援等を目的として、2003年11月、弁護士、市民、企業によって設立されました。

住民の7割が日系人の村に簡易太陽光発電を ——ホセアバドサントス町でワークショップ開催！プロジェクト終了報告

応援ありがとうございました！9月12～16日、ミンダナオ島南端ホセアバドサントス町の日系人が多く暮らす地域で、簡易太陽光発電装置組立ワークショップを開催し、電気供給を受ける余裕がない世帯へ、簡易太陽光発電の電灯を約160個お届けすることができました。

Day1 9/12：はじめまして

初日、一般公募で集まった日本人のボランティア5人（学生2人、社会人3人）がダバオ入り。夕方から日系人会（PNJK）事務所で、今回ボランティア参加するミンダナオ国際大学（MKD）の学生5人も加わり、顔合わせミーティングです。PNLSC 猪俣代表理事より、この活動の経緯や目的について、また、ミンダナオ国際大学のイネス・マリヤリ学長より、この活動の意義や心構えとして、相手に心を寄せること、心を開いて話してくれるのを待つことなど、大切なお話をいただきました。その後、PNJK職員ヘレンさんより、明日からのスケジュールと、日比ボランティアのパートナー組み合わせ発表。パートナーシップについてのお話も。今回、日比のボランティアは常にペアで活動します。パートナー同士はじめましての挨拶から、あっという間に打ち解けていました。

夕食には、NGO リッターオブライト（Liter of Light）スタッフも合流し、ともに働くメンバー揃ってはじめて



の食事です。一緒に食べることからはじまります。

Day2 9/13：ホセアバドサントス町へ

朝ホテル前に集合して出発。この4日間を素晴らしい運転でサポートしてくれたドライバーさんたち。ありがとうございました！約6時間の道のりです。フルーツスタンドで一休み。牛の横断にも出会います。海岸沿いも走ります。くねくね山道に胃がぐるぐる回りだしましたが、ヘレンさん持参のタイガーバームの香りにみんな助けられました。

お昼過ぎにホセアバドサントス町到着。滞在中何から何までお世話になった町会議員でありPNJK理事の木村ピンキーさん（日系3世）が迎えてくれました。ピンキーさん宅でお昼をいただき、町役場や私立学校を訪問。ここでホセアバドサントス町の中高生ボランティアと合流、またまた話がはずみます。次に公立学校訪問。校長に、日系の子どもの人数を聞くと、分からないほど多数在籍しているとのこと。まだ日がある





ので早速明日のワークショップに参加してくれる住民に会いに、海辺へ、山へ、そして川向うへと足を運びました。

Day3 9/14 : ワークショップ開催!

二手に別れ、猪俣代表理事チームは、昨日訪問した家からさらに1時間半山奥の日系人の家へ向かいました。ボランティアチームは、温泉が出るという川へ。川での洗濯風景など地元の方の生活を垣間見ます。海辺の洞窟には戦後の混乱期などに隠れ住んでいたという人の暮らしの痕跡がありました。おやつにはヤシの実を。大自然の空気と食事が本当に豊かです。

昼すぎ、いよいよ地域の中心にある広場、ワークショップ会場へ。たくさんの住民が集まってくれています。熱い視線の中、まずはボランティアたちが、「リッターオブライト」のスタッフからオリエンテーションを受け、太陽光発電装置の仕組み、組立て方、作動確認方法を把握。その間、地域の日系人をよく知る木村ピンキーさんが名簿を確認。呼ばれた世帯代表者たちは、前に進み出て、使い方のレクチャーに真剣に聞き入りました。今回の配布は1世帯に1つずつです。いよいよ、住民代表がサポートを受けながら組立てを始め

ました。代表者は真剣そのもの。周囲の応援の中、協力しあって、ひとつひとつの電灯を大切に作り上げました。できあがっている電灯をもらうのではなく、自分たちで作ることで、愛着や、壊れた時にも修理するモチベーションや自信につながると期待。持続可能な電灯への願いです。全員が無事に作り終え、配布を開始。1人ずつ受け取りの署名とサインをいただき、ボランティアからひとつずつ手渡されました。最後に受け取った電灯を掲げ全員で記念撮影をしました。

日暮れの頃、配布世帯に何うと、お父さんが作った電灯を嬉しそうに使っている光景に出会えました。



Day4 9/15 : モニタリング、町長にご挨拶、2世訪問

翌日、昨日配布した電灯の様子を見に、3つのエリアに3班に分かれ向かいます。ある家では、配線がネズミにかじられるというトラブルが起きていましたが、現地にあるもので修理できるのもリッターオブライトの魅力、無事に修理できました。翌日のモニタリングの大事さを実感しました。ボランティアのペアで各世帯にインタビューも行いました。洗濯もの干しスペースに、太陽光パネルも置かれ、充電されている風景が嬉しい!

■翌日のインタビュー結果(抜粋)

- ・太陽光なので無料で充電できて助かる。
- ・日没後も子どもたちが勉強できるようになって嬉しい。
- ・懐中電灯やライターよりとても明るくなった。
- ・1歳の息子がいるので、生活が便利になり満足。
- ・灯油よりソーラーライトの灯りがずっといい。

ミッションを終えて、ジェイソン・ジョン・ジョイス町長にご挨拶。ホセアバドサントス町の中高校生ボランティアの参加は町長のアイデアで実現しました。ここで、一足先にダバオへ戻るミンダナオ国際大学の学生とお別れです。終了式を行いました。4日間の感想を1人ずつ発表し、各班で密かに練習していたチーム毎の出し物を披露。夕方は、近隣にお住いの日系2世(マラモトパシータさん)宅を訪問し、お会いすることができました。

■ミンダナオ国際大学の学生ボランティアの感想(抜粋)

- ・テレビ番組のドキュメンタリーで見るだけだったようなことを体験し、人々とコミュニケーションし、深く知り、私の心が開かれ、頑張ろうという気持ちにもなりました。私の家に電気が通っていることを幸運に思います。私にとって、気づきでありチャンスかもしれません。

Day5 9/16 : ダバオへ戻り終了式

最終日、ダバオへ戻る前に、近隣の町に住む、直前に就籍が叶った日系2





世(羽瀨セルヒオさん)に会いにご自宅へ。就籍許可をともに喜ぶことができました。名残惜しい中、一路ダバオ

へ。最終日の晩餐会、ご多忙の中、在ダバオ石川義久総領事が駆けつけてくださいました。日本からのボランティアメンバーは「ボランティア参加証明書」を受け取ると充実感いっぱいの笑顔になりました。

今回、さまざまなバックグラウンドを持つ者が集まり、光と希望を灯したいという気持ちの下、共に活動できたことは、かけがえのない時間になりました。フィリピンの南端のホセアバドサントスという町に、なぜこんなにもたくさんの日系人の方が暮らしているのか、その歴史や現状を、身をもって学びながら協働できたことは、とても豊かで大きな学びとなりました。実際に会い、交流が生まれたことは、未来へつなげる希望です。

フィリピンには同じような集落がまだあります。各地の日系人会と協働で、必要な地域にこの輪を広げていけたらと考えています。今回は、クラウドファンディングや様々な形でご支援くださった皆さまのおかげで実現しました。心より感謝申し上げます。今後も「電気の届かないフィリピンの日系人集落に光と希望をお届け!! 太陽光発電プロジェクト」を必要な地域・世帯に届ける夢を実現していけたらと願います。どうぞこれからも応援よろしくお願いいたします。

After the Workshop ～ワークショップを終えて

後日、ボランティア参加者の皆さんから、さまざまな意見や感想をいただきました。抜粋して共有します。

<全体についての感想>

●実際に残留日本人へのインタビューをその場でできて、戦後、過酷な状況に置かれていたことを理解しました。残された時間は僅かで、フィリピンだけでなく他の国にもいると理解しています。この問題に対して日本政府は責任をもって早急に解決するべきであり、また私たち国民も同じ日本人として彼らの存在や歴史を正しく理解し、できることをすべきだと思います。

●最初は軽い気持ちで参加しましたが、実際に電気が通っていない山の中の家を見せてもらい衝撃を受けました。なぜそこに住まなければならなかったのかという背景を知り、私にできることは少ないけど、友達や家族に伝えることで、フィリピン残留日本人について思いを

馳せるきっかけにしたいと思いました。

●初のボランティア活動でフィリピンの奥地での活動は心配もありましたが色々サポートしてもらい無事終えることができました。学びは多く、このような環境で暮らしている人がいることを知れたのが一番大きな経験であると思いました。

●自分では一生経験できないような、日本の生活とは異なるミンダナオ島ホセアバドサントスの人々の生活を見ることができました。もので溢れている日本の生活からすると大変そうと一方的な目線で比べてしまうのですが、子ども達が笑顔で楽しそうなのが印象的でした。ライトを配布する日、村の人達が楽しみで早くから集まって待っていたのはとても嬉しかったです。

<印象に残ったこと>

●残留日本人が待望の日本の戸籍が回復したことを知った瞬間を見れたこと。本当に間に合って良かったと思うのと同時に、同じ日本人として今まで残留日本人の存在を知らなかったことを申し訳なく思います。

●ライトを配布した次の日の村へのインタビュー。どのような生活をしているのかや生活で困っていることなどの話を聞いて、知らない世界を知った。

<発見、気づきはありましたか?>

●今回、就籍をお伝えする現場に立ち合わせてもらえたことで、自分自身のアイデンティティを考えるきっかけになりました。

●基本的に明るい人が多いが、意外とシャイな人もいたこと。子どもは明るい子が多かった。

●子ども達の笑顔が溢れていて、とても幸せそうだった。

<驚いたこと>

●家が手作りなのにも関わらず、凄く綺麗なこと。

●ダバオ市周辺には日系人が多く、無国籍の方が多数いることに驚きました。

●地元の人たちがみんな優しくかったこと。



ホセアバドサントスの海。この海を渡って、移民も、戦争もやってきたのだと、感慨深い風景でした。



<各地の日系人会からのレポート>

戦後79年目を迎えた慰霊の夏、外務副大臣も訪比

終戦から79年目の夏も、日本から多くの方が残留者を訪ねました。8月21日、フィリピンを訪問中の柘植芳文外務副大臣と、国籍未回復の2世ホセ タケイさんとの懇談がマニラで実現、ホセさんが語る苦難の



外務副大臣 (左) とホセさん (右)

人生に副大臣が耳を傾けました。同席した猪俣代表理事やマニラ日比協会のステファン ブニ会長が活動実績や現状について説明しました。日本政府は、残された残留者たちへのできる限りの支援を表明、証拠集めなどの難しさに直面しているホセさんにとって、日本国籍回復への明るい希望となりました。

副大臣の訪比に先立ち、7月19日、石川義久在ダバオ総領事と猪俣代表理事は2人の残留2世の自宅を訪問しました。面談したのは93歳になるロサリナ カンバさんと、83歳のアリシア ジャンボ=チエコ コダイラさん。ロサリナさんは徐々に薄れゆく父親の記憶につ



石川総領事(右から2人目)とロサリナさん(同3人目)

いて語りました。チエコさんが持っていた家族写真の裏には、色褪せた両親の結婚写真が貼り付いていました。教会の婚姻記録は戦火で焼失したため残っておらず、これが唯一の証拠でした。総領事の訪問を受けた2人は、とびきりの笑顔を見せてくれました。

(ヘレン エスコビリャ=PNJK)

2人の議員が各地の日系人会を訪問、慰霊祭参加も

7月24日、日本維新の会(大阪選出)の梅村みずほ参議院議員がセブ日系人会を訪問。ベネディクト オナリさんら日系人会メンバーと面会し、活動状況や今後の方向性について意見交換しました。梅村議員は日比の戦没者への追悼の意を示



梅村議員 (右から3人目)

したのち、涙を浮かべながら日系人たちの記録に目を通していました。(エストレリャ シエガ=セブ日系人会)

翌25日、梅村議員は猪俣代表理事とともにセブ郊外ボルジョオン在任のプリフィカシオン イデモトさんの自宅を訪問しました。イデモトさんは来訪者の顔ぶれに驚いていましたが、残留2世の声を聞きたいという議員の思いを理解し、ヒアリングは穏やかな空気の中スムーズに進みました。85歳になるイデモトさんの記憶は明晰で、写真を見せて日本人父や家族について語ってくれました。セブ領事館の矢富利夫領事も総領事代理としてオンラインで参加しました。(シルビア アブアド=セブ日系人会)



イデモトさん(左)と梅村議員

8月3日、梅村議員はマニラ日比協会のメンバーと懇談の時を持ちました。残留2世のホセ タケイさん、そしてクロサワファミリーの3世も同席し、意見交換する貴重な時間となりました。日系人コミュニティと日本との関係強化や法的支援のあり方などについて活発に議論が交わされました。(アナ サントス=マニラ日比協会)

7月30日、梅村議員はダバオの日系人会を訪問、ここでも温かい歓迎を受けました。日系人会の施設内を案内された梅村議員は、残留した2世たちの救済は自分の使命だと涙ながらに語り、日系人会へのサポートの気持ちを示しました。



慰霊祭でスピーチする梅村議員

8月に入ると、立憲民主党(東京選出)の塩村あやか参議院議員がダバオを訪れ、16日にミンタル公共墓地で開催された慰霊祭に参加しました。塩村議員は昨年到现在2度目のダバオ訪問でした。議員のスピーチでは、異国の地で亡くなった日本人入植者たちとすべての戦争犠牲者への哀悼の意が示されました。この慰霊祭の開催は、長年にわたるダバオ総領事館の協力なくしては実現できなかったものです。総領事に心の底から感謝しています。(アイミー ガンタラ=PNJK)

残留者にフォーカスした好評ドキュメンタリーの続編が完成

カメラがとらえた残留者たちの切実な「今」

昨年8月にテレビ朝日系列の「テレメンタリー2023」でオンエアされた「彷徨い続ける同胞」の続編「続・彷徨い続ける同胞」が8月17日に放送されました。前回の番組はドイツ・ハンブルクで開催された第25回「World Media Festival」のドキュメンタリー部門で銀賞を受賞した力作でした。

前回の取材から1年の間にさまざまなことがありました。沖縄に親族捜しに渡った残留者2名のうち1名が、親族と思われる人たちと会って父親の墓参をした時の様子や、日本大使館の公使が初めてパラワンの離島に住む残留者を訪れ、訪問が遅くなったことを謝罪する姿、さ

らにロサリナ神庭さんやチエココダイラさんの自宅をダバオ総領事が訪ね、手元に残された古い婚姻写真を見せられる様子、加えて、上川陽子外務大臣（当時）が、「問題についての政府の認識と救済のための方策はあるか」との記者の問いに対し「一日も早い国籍回復等に向けて積極的な支援を進めたい」と答弁する様子など、貴重な瞬間をカメラがとらえています。前作に続いての力作、現在 You Tube 上で全編を無料公開中です（右 QR コード）。



地道にコツコツと就籍許可申立を続けています

日本人の子どもとして語ったことが届いた喜び

●新田テレシタ (81歳・愛知県一宮市)

就籍の許可が下りたと知らされ、大変うれしく思っています。ご尽力くださった横澤弁護士と PNLSC の皆さんに感謝します。日本政府からの許可が出たことは大変に光栄です。日本人の子どもとして語ったすべての話を聞いてくださったことを感謝します。



月が経ちました。私には待つことしかできませんでした。神が85歳まで生きながらえさせてくださったことを感謝します。私の夢をかなえてくれた PNJK の皆さん、PNLSC の皆さん、とりわけ猪俣さんと法的支援をしてくださった弁護士さんに感謝します。私が生きている間に子どもたちが日本へ行くことができますように。



●傳田アントニオ (80歳・カビテ州)

就籍許可の嬉しい知らせを受け取り、家族ともども喜んでます。完全な国籍を得て日本で暮らしたいという私の長年の夢がいよいよ実現しそうな今、手続を進めてくださったマニラと東京の PNLSC のスタッフへの感謝の気持ちでいっぱいです。とりわけ私のケースを受任くださった金裕介弁護士に感謝します。この人たちの助けなしには実現しませんでした。日本国籍が私と家族にもたらすものは、はかり知れません。



●盛根リディア (84歳・パラワン州)

私たちが日本人の子孫であると証明するために手助けしてくださった皆さまに感謝します。あなたたちなしには決して実現しませんでした。日本へ行くにはあまりに年老いてしまいましたが、機会があれば訪れてみたいです。



●羽瀨セルヒオ (85歳・ダバオオキシデンタル州)

私が羽瀨の子どもだと認めてほしいと願って続けて長い年

●盛根エスペランサ (86歳・パラワン州)

日本国籍の回復のために尽力くださった PNLSC 東京とマニラの皆さま、佐藤弁護士、パラワン日系人会に感謝します。あなたたちの優しさ、粘り強さ、そして聡明さに感謝します。もうすぐ日本の親族に会えるかもしれないと思うと幸せな気持ちでいっぱいです。



エッセイコンテスト授賞イベント & ワークショップを開催しました！ 日系人の経験に学び、よりよい未来を考える

2024年8月24日、オンラインによる授賞式兼ワークショップを開催しました。2世から4世まで、日本人も学生からシニアまでさまざまな年代の人たちが各地から参加、総勢35名にのびりました。



人母について語った90歳の2世の話は印象的だった」

「今後の課題として、地元の日系人が自分たちの状況や必要な作業などについて、集まって一緒に考えることが大切という意見が出た」

参加した受賞者4名が自己紹介と作品についての思いを語り、受賞者の紹介動画を視聴後、審査員を代表し、ミレーン駐日大使代理のシャーマン・セルマ・チュア首席公使兼総領事と、フィリピン日系人会連合会のイネス・マリヤリ会長からメッセージをいただきました。

「時代の変化によって祖先とのつながりの求め方が変化していることを、若い著者たちがすばらしい文章にしています。みなさん自分の感情に従って生きてください、それ以上に重要なことはありません」(チュア首席公使)
「地域は違っても日系人は生きづらさなどの物語を共有していると実感しました。若い世代のみなさん、日比の友好の架け橋となってください」(マリヤリ会長)

イベントでは、テレビ朝日によるドキュメンタリー「彷徨い続ける同胞」の一部と一緒に視聴したのち、4つのグループにわかれて意見を交わしました。1時間のフリートークのあと、各グループの内容をプレゼンテーションしてもらいました。主な意見を要約します。

「在日・在比、日本人・日系人、2世から4世まで多様な人が集まり、異なる視点と共通の課題が見えた。2世は、テレメンタリー番組の物語を自分自身と重ねていた一方、4世は、曾祖父から直接話が聞けない今、こうしたドキュメンタリーから学ぶことが重要だと語った」

「現在ALT(外国語指導助手)として働く4世は、来日当初に感じた未知の文化や言語に対する困難を乗り越えるには教育が重要だと語った。日本人は、政府に対して包括的な救済を要求するのと同時に、若い世代の日系人との協力関係を築くことも重要だという意見も出た」

「4世は、かつて祖母が語っていたおとぎ話のような過去の話が現実のことなのだと実感したのは2020年にPNLSCがパラワンに来た時だったと語った。2世である子どもたちを差別から毅然として守り続けたフィリ

ピン人母について語った90歳の2世の話は印象的だった」
「今後の課題として、地元の日系人が自分たちの状況や必要な作業などについて、集まって一緒に考えることが大切という意見が出た」
「戦争による被害が甚大で十分な証拠が残っていないのだと日本政府と裁判所にアピールし、配慮を求めたい」
「日本政府による日本兵の遺骨収集ではDNA鑑定で判断しているので、その技術を残留者のアイデンティティ特定に活用できないか」

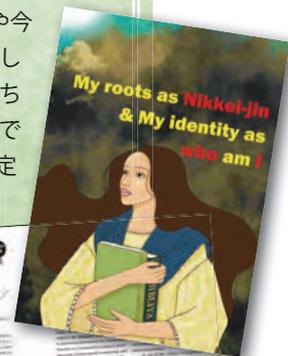
クロージングでは、審査員でありグループトークでファシリテーターを務めた大野俊さん(PNLSC理事/元毎日新聞マニラ支局長)から一言をいただきました。「ロダ・ジョイスさんの作品は祖先のルーツを学ぶことでアイデンティティと帰属意識が与えられたこと、そして現在の自分を形作っているルーツを受け入れることが個人的成長にとって不可欠だと述べていて、非常に印象的でした。歴史を学ぶことが次の世代にとっていかに重要であるかを、教えてくれていると感じます。エッセイコンテストはPNLSC初の試みでしたが、これまでの法的支援から一歩進んで、次の世代の日系人支援、アイデンティティ形成の場の提供、さらには日本における日系人会の結成など、新たな役割を担っていけるかもしれません。そうしたポテンシャルを感じました」(大野さん)

多くの出会いと貴重な意見交換の場となりました。参加者のみなさま、長時間ありがとうございました。

エッセイ作品が本(日・英併記)になります！

「My roots as Nikkei-jin & My identity as who am I」(仮題)

受賞作品をメインに、審査員のコメントや今回のワークショップレポートなども加筆して、1冊の書籍にしました。日系人の方たちの「今」の声をまとめた形で読むことのできる貴重な1冊です。2024年11月発刊予定です。ご希望の方はinfo@pnlsc.comまでご連絡ください。



日本語と英語が併記されています



人とのかかわりを通して

フィリピンに誠実に関わり続けてきた年月

あれはもう30年近く前のこと。今“新日系人”とも呼ばれるJFC(Japanese Filipino Children)の問題と一緒に取り組んでいた石井恭子さん(PNLSC 事務局長)が、フィリピン残留日本人の支援にかかわり始めた1990年代後半、フィリピンで勉強していた私は、通訳としてこの問題に関わる機会を得ました。当時、猪俣典弘さん(代表理事)も同じ学校で学んでおり、プレゼン力とコミュニケーション力が非常に高い、とても気さくでアクティブな人として尊敬していました。

30年もの間、ずっとフィリピンに関わってきたお2人を中心に、PNLSCは誠実に日系人の方々に向き合い、現地のスタッフの方々とも肩を並べて協働してきたことは容易に想像できます。その結果、日比の政府を動かすための努力が少しずつ結実し、日系人の方々の権利回復が図られつつあります。

白髪交じりになっていた友の吉報

2020年に就籍許可を得られたタクミ・ミノルさんのご子息である通称ドドンとは、通訳として関わった際に知り合い、スタッフであった彼自身も日系人であると聞いていました。そのドドンの姿と共にお父さんが就籍できたという吉報をたまたまテレビで見た時、「え？あのドドンだよ？ まだ就籍できていなかったんだ……」と思わず呟いてしまいました。



(写真上)1990年代後半、留学していたASI(Asian Social Institute)の仲間たちと(筆者は右端・前列左が猪俣代表理事)／(写真右上)フィリピン留学時代の筆者。背後の車両はフィリピンの公共交通手段である乗合ジープニー／留学当時、パタアンに遊びに出かけたひとこま(筆者は右・前列左が石井事務局長)

白髪混じりのドドンの姿に、就籍にはこんなにも時間がかかるものなのだと実感したと共に、正に人生をかけて勝ち取った権利回復・アイデンティティの獲得だと思いました。これがフィリピンにおける日系人の方々の置かれている実態といえます。

日本人が関わることで生まれる心強さ

私は帰国後の2001年より、外国にルーツのある女性とその子どもを多く受け入れている母子生活支援施設に勤務しており、ここでも様々な国籍の日系人の方々に支援してきました。家族・夫婦・親子関係や在留資格も含めた生活に関わる問題は、日系人に限らずとても複雑で難しい問題です。そこでいつも思うのは、日本人である私たちが隣人として外国にルーツのある方々に生活レベルで関わり、日本人としてできることをいかに成しえるかということです。日本人が関わってくれるということは、私たちが想像する以上に心強いことなのです。それはここ日本でも、フィリピンにおける日系人社会でも同様のことでしょう。

時の経過と共に変化していく課題に対し、新たな取り組みを通してチャレンジし続けるPNLSCを、これからも応援します！



PNLSC 活動報告 (2024.07.01-2024.10.07)

- | | | | | | |
|--------------|----------------------------------|--------------|--|--------------|---|
| 07/01 | 末日聖徒イエス・キリスト教会
ファミリーサーチ調査(田近) | 08/01 | 来所:宮澤恵美さん、Jun Kuraさん | 09/10 | 来所:屋宜プレッセルファミリー |
| 07/03 | 事務局弁護士会議 | 08/05 | 来所:沖繩平和協力センター本
田路晴研究員、沖縄県知事公室
平和・地域外交推進課松岡基樹
主査 | 09/11 | 田母神、ダバオ出張へ |
| 07/04 | 来所:沖縄県立図書館 資料・情
報班 原裕昭さん他2名 | 08/06 | 来所:大野俊さん | 09/12 | ホセアバドサントスにてリッターオブ
~16 ライトワークショップ(猪俣、田母神) |
| 07/05 | 末日聖徒イエス・キリスト教会
訪問(猪俣) | 08/15 | カリラヤ慰霊祭(猪俣) | 09/20 | 田母神、帰国 |
| 07/08 | 梅村みずほ議員事務所訪問(猪俣) | 08/16 | ダバオ慰霊祭(猪俣) | 09/19 | 来所:デンダファミリー3世・
3名 |
| 07/09 | PNLSCアカウントでX開始 | 08/21 | 柘植芳文外務副大臣の2世ホセ
タケイさんとの面会に同席(猪俣) | 09/25 | 猪俣、帰国 |
| 07/11 | リッターオブライトワーク
ショップ・クラファン開始 | 08/24 | オンラインイベント「エッセイコ
ンテスト授賞式&ワークショップ
」開催 | 09/30 | 来所:赤岸ジョセフィンさん
塩村あやか議員の報告会に参
加(石井、田近) |
| 07/14 | 猪俣、フィリピン出張へ | 09/06 | UNHCR議達逢沢一郎会長に面
会(河合、石井、田近) | 10/01 | 来所:八若ラルニさん/松本さ
さん、那須さん(テレビ朝日) |
| 07/19 | ダバオ総領事面接 | | | 10/04 | 来所:桑原さん(NHK)
事務局会議 |
| 07/23 | 来所:城中孝夫さん | | | | |
| 07/25 | ピサヤ総領事面接 | | | | |

ご支援に感謝いたします (敬称略・順不同・2024.07.01-2024.9.30)

《新入会》

団体賛助会員: 立憲民主党東京都参議院
選挙区第3総支部、

日系人会員: タクミジュセブンセレニオ、
エスクルトラプレシ、エスクルトラマ
リーローズ、デンダアラン プリロ、デン
ダケネス プリロ、松澤健

《会員更新》

団体賛助会員: オンダン農業協同組合、恒
産アオキ(株)、(株)印南食品

個人正会員: 池山和徳、城中孝夫

個人賛助会員: 宮城智子、西川涼子、稲塚
由美子、浅野敏行、内山史子、高尾昂祐、新
実光一郎、小園小夜子、関武彦、シャープ
茜、柴田智和、小山誠二

日系人会員: 笠原ジュリエット、タナカグ

ロリアパチェス、川畑ネナ、ホシコロラン
ドマデラ、ラバゴジェネット サカイ、グン
バンジェームスマツモト、ミワメイフロア、
キアンコダーウィン、新庄テッシー、ヨギ
ジェニファー、ドンヘルビエンベニドジュ
ニア、ヤマナカエドガーフェラレン、シモ
マエマリアメイ、スベラブルスーサンシラ
イシ、ガディアナメリーゼンエスクルト
ラ、アルカイデジョセフィンベルバ

寄付: 柳本教仁、板坂純義、宮城智子、
ばかぼん、永田ミユキ、岡田昌三、石田
まどか、綿引弘、長谷川文彦、新庄テッ
シー、竹下潤子、大場光代、篠塚寿美香
中村紘子、龍田成人、岡本ヒロシ、劔持
彩人、松本愛子、仙波梨英子、ディマイ
リグレイラデンダ、デンダアランプリ

口、内田明、山崎伸一郎、匿名1名

「電気の届かないフィリピン日系人集落に光
と希望をお届け!」プロジェクトへの寄付:

(株)エヌチキン、(株)オカダ商事、Norio Ishii、
Jun Takahashi、Ken、Blue-K.M、nekoneko28、
U・ジェッター、新井和仁、石川義久、石
井恭子、浦川麻美、太田勝久、太田文代、
大友麻子、鉤裕之、かとう、北野貴晶、
久保ノ谷司光、小出幸世、小島求己、小
竹薫、小林晶子、小谷津順子、齋藤幸三、
酒井紀之、先本賢一、竹嶋克之、永野一
郎、西川涼子、西山隆太郎、長谷川大輔、
藤田弓子、森永亨、米野みちよ、我妻勝
之(他8名匿名)

*認定NPOへの合計3,000円以上の寄付、個人・団体賛助会員、学生、日系人会員の会費は寄付控除、法人税優遇の対象となります。(但し、正会員会費と各種入会金は控除の対象外)

事務局だより

ホセアバドサントスの電気のない集落に簡易太陽光発電装置をお届けす
るプロジェクト、日比の若いボランティアが集まり、とてもよいワーク
ショップとなりました。地域や世代を超えて、お互いを理解する貴重な
一歩です。今後のPNLSC活動にも主体的に関わりたいたいと言える参
加者の方もいて、大きな成果を感じています。ご協力くださったみなさ
まに改めて感謝申し上げます。就籍許可の報せが続く一方、就籍の申立
準備をしていた2世が亡くなるという悲しいニュースも入ってきました。
残された時間の短さを改めて認識します。政治による一括救済の道を切
り拓くしかないとの思いを新たに、ロビー活動に力を入れてまいります。

マニラ事務所便り

自分の次なる新しいキャリアのために、この度
PNLSCを退職することになりました。この職場
を去るにあたり、2世の方たちの戦中戦後の苦
難のお話についてインタビューさせていただ
いたことなど、忘れられない仕事をいくつも思い
出します。すべての2世の方の国籍が回復され、
誰一人取り残されることがないようにと願いま
す。各日系人会の皆さま、支援者の皆さま、本
当にありがとうございました。(エミー)

ご入会・ご寄付のお願い

■正会員

(団体)	入会金	30,000円
	年会費	24,000円
(個人)	入会金	10,000円
	年会費	12,000円

■賛助会員

(団体)	入会金	10,000円
	年会費	12,000円
(個人)	入会金	1,000円
	年会費	6,000円

■学生会員

入会金	なし
年会費	3,000円

■日系人会員

入会金	なし
年会費	3,000円

■銀行口座

みずほ銀行 四谷支店
普通 1985293
ゆうちょ銀行 〇一九支店
当座 00130-6-333599

※名義はいつでも「フィリピンニッ
ケイジンリーガルサポートセンター」

発行

認定NPO法人

フィリピン日系人リーガルサポートセンター
(Philippines Nikkei-jin Legal Support Center)

代表理事: 河合弘之 Hiroyuki KAWAI
猪俣典弘 Norihiro INOMATA
事務局長: 石井恭子 Kyoko ISHII

〒160-0004
東京都新宿区四谷1-7 装美ビル602
TEL:03-6709-8151 FAX:03-6709-8152
E-mail:info@pnlsc.com URL:http://www.pnlsc.com

